

令和7年度 病害虫防除技術情報 第1号

令和7年4月4日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

麦類赤かび病の防除対策について

赤かび病菌は人体に有害なカビ毒を生産するため、多発すると規格外となります。出穂後に降雨が続くと発生に好適な条件となるため、2回薬剤の散布を行って下さい。

- (1) 小麦と裸麦では開花最盛期から10日間程度の間が最も感染しやすく、二条大麦では葎殻抽出期（葎の出始め）にあたる穂揃い約10日後（出穂12～14日後）に最も感染しやすいため、この間に降雨が続き気温が高いと多発しやすくなります。
- (2) 防除適期の目安は、出穂期から予測することが可能です。農林水産研究指導センター水田農業グループによれば、宇佐市における平年出穂期は下表のとおりです。

表1. 麦類の出穂期

播種時期	麦種	品種	出穂期 (予測)	平年比	平年出穂期
適期 (11月下)	裸麦	ハルアカネ	4月2日	+1	4月1日
	二条大麦	ニシノホシ	4月2日	+2	3月31日
	小麦	チクゴイズミ	(4月6日)	+3	4月3日
		はるみずき	4月3日	+4	3月30日
晩播 (12月中)	二条大麦	ニシノホシ	(4月17日)	+8	4月9日
	小麦	チクゴイズミ	(4月20日)	+10	4月10日

注) 出穂期の予測は今後の気象条件等により変動する場合があります。

最新の情報は農林水産研究指導センター農業研究部水田農業グループ参照

<https://www.pref.oita.jp/soshiki/15084/>



- (3) 4月3日に福岡管区気象台が発表した「九州北部地方1か月予報」（4月5日から5月4日まで）は以下のとおりとなっています。少雨傾向と予想されていますが、天気は数日の周期で変わるため、適期防除を心がけて下さい。

	平均気温（向こう1か月）	降水量（向こう1か月）	日照時間（向こう1か月）
九州北部地方（山口県含む）	低30 並30 高40% ほぼ平年並の見込み	少40 並40 多20% 平年並か少ない見込み	少30 並30 多40% ほぼ平年並の見込み
数値は予想される出現確率（%）です			

福岡管区気象台のホームページから抜粋。

<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/kaisetsu/?region=010900&term=P1M>



(4) 防除上注意すべき事項

- ア 出穂時期に注意し、防除適期を失しないようにする。
- イ 小麦及び裸麦では、開花最盛期から10日後までが最も感染しやすい。そのため、開花最盛期とその7～10日後に2回薬剤散布を行う。なお、開花最盛期は、裸麦で出穂5～7日後、小麦で同7～10日後である。
- ウ 二条大麦では、葯殻抽出期（葯の出始め）にあたる穂揃い約10日後（出穂12～14日後）に最も感染しやすいため、この時期とその7日後の2回薬剤散布を行う。
- エ 開花最盛期や穂揃い期の判別は困難なため、出穂期（全茎の40～50%が出穂した時期）を把握し、防除計画を立てる。
- オ 防除適期が短いので、降雨が続く場合は合間を見て散布する。
- カ 2回目の防除適期を過ぎていても、感染しやすい条件に該当する圃場では1回目防除の20日後くらいまでに2回目防除を行えば防除効果が期待できる。
- キ 主要薬剤の登録は表2～4を参照し、薬剤の収穫前使用日数には十分注意する。

表2 麦類赤かび病対象薬剤（散布剤）

作物名	FRAC	農薬の名称	希釈倍数	使用用量	使用時期	本剤の使用回数
小麦	1	トップジンMゾル	1,000～1,500倍	60～150L/10a	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)
	1	トップジンM水和剤	1,000～1,500倍			
	3	チルト乳剤25	1,000～2,000倍	60～150L/10a	収穫3日前まで	3回以内
	3	シルバキュアフロアブル	2,000倍	60～150L/10a	収穫7日前まで	2回以内
	7	ミラビスフロアブル	1,500～2,000倍	50～150L/10a	収穫7日前まで	2回以内
麦類 (小麦を除く)	1	トップジンMゾル	1,500倍	60～150L/10a	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は1回以内)
		トップジンM水和剤	1,000～1,500倍		収穫30日前まで	
麦類	3	ワークアップフロアブル	2,000～3,000倍	60～150L/10a	収穫7日前まで	3回以内
大麦	3	チルト乳剤25	1,000～2,000倍	60～150L/10a	収穫21日前まで	1回
	3	シルバキュアフロアブル	2,000倍	60～150L/10a	収穫14日前まで	2回以内
	7	ミラビスフロアブル	1,500～2,000倍	60～150L/10a	収穫14日前まで	2回以内

表3 麦類赤かび病対象薬剤（ブームスプレーヤー）

作物名	FRAC	農薬の名称	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数
小麦	1	トップジンM水和剤	250倍	25L/10a	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)
	3	シルバキュアフロアブル	500倍	25L/10a	収穫7日前まで	2回以内
	7	ミラビスフロアブル	250~500倍	25L/10a	収穫7日前まで	2回以内
麦類	3	ワークアップフロアブル	500~750倍	25L/10a	収穫7日前まで	3回以内

表4 麦類赤かび病対象薬剤（無人航空機）

作物名	FRAC	農薬の名称	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数
小麦	1	トップジンMゾル	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)
	3	チルト乳剤25	8倍	800mL/10a	収穫7日前まで	3回以内
	3	シルバキュアフロアブル	16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内
	7	ミラビスフロアブル	8~16倍	800mL/10a	収穫7日前まで	2回以内
	1・7	ベフトップジンフロアブル	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は1回以内)
麦類 (小麦を除く)	1	トップジンMゾル	8倍	0.8L/10a	収穫21日前まで	3回以内 (出穂期以降は1回以内)
麦類	3	ワークアップフロアブル	10~24倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
大麦	3	チルト乳剤25	8倍	800mL/10a	収穫21日前まで	1回
	3	シルバキュアフロアブル	16倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内
	7	ミラビスフロアブル	8~16倍	800mL/10a	収穫14日前まで	2回以内

大分県農林水産研究指導センター農業研究部 病害虫対策チーム

ホームページアドレス

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>

